令和6年2月27日（火曜日）

建設工業新聞

権限代行でも地元業者の参画を

足立参院議員 能登地震復旧で

輪島市内視察

足立敏之参議院議員は26日、能登半島地震の被災地である輪島市を視察し、今後の復旧・復興に全面的に尽力する考えを示した。

同日はまず同市内の鳳輪建設業協会を訪れ、二俣馨副会長らから発災以降、現在までの状況報告を受けた。県事業の国による権限代行に関して「何らかの形で地元業者が参画できる工夫が必要。熊本地震などの事例を参考にすべき」と述べた。輪島市役所では坂口茂市長と懇談し、坂口市長が「地震で幹線道路以外も寸断しており、復旧や支援活動に支障が出ている。朝市通りの復興には土地区画整理事業も検討する必要がある」などと述べ、足立参院議員は「新潟県糸魚川市の復興が参考になる。様々な手法を活用し、朝市通り再生のチャンスにするべきだ」と激励した。

その後、大火に見舞われた朝市通り、マリンタウンの応急仮設住宅など、門前町では海岸が4㍍隆起した鹿磯漁港の様子を視察した。

27日は珠洲市を訪れ、崩落が著しい大谷トンネルをはじめ、鳥川大橋（ループ）、若山町中の隆起個所、蛸島漁港、見附島などを視察する。

なお、25日は糸魚川市で大規模火災の復興状況を確認した。

輪島市の朝市通りを視察した足立参院議員㊨＝26日